

From JPMA

価値は共に創る

Co-creationで拓く真に患者中心の医療

日本製薬工業協会 前専務理事

森 和彦さん

MORI KAZUHIKO

国民の皆さまが長く健康に暮らせる持続可能な社会の実現を目指すうえで、
「患者さんを真の中心に据えた医療をどのように実現するか」が、ますます重要なテーマとなっています。
従来の「Patient Centricity(患者さん中心)」という概念を超えて、
いま注目されているのが「Co-creation(共創)」という新たなアプローチです。
患者さんや市民、そしてさまざまなステークホルダーが対等なパートナーとして価値を共に創り上げる
(共創)ーこの理念が製薬業界に与える変革の意義と、私たちが歩んできた道のり、次世代への思いに
ついて、約5年にわたる在任の締めくくりとして製薬協森前専務理事にお話をうかがいました。





森 和彦さん | MORI KAZUHIKO

日本製薬工業協会 前専務理事

1983年旧厚生省入省。国立医薬品食品衛生研究所医薬品医療機器審査センター審査第二部長、PMDA新薬審査第一部長・審議役・安全管理監、厚生労働省安全対策課長・審査管理課長・大臣官房審議官(医薬担当)等を歴任。2019年定年退職後、2020年10月より製薬協専務理事として約5年間活動。製薬協では「Co-creation」の概念を中核理念として導入・推進し、患者団体との連携強化や「臨床試験にみんながアクセスしやすい社会を創る会」の事務局運営、「くすりビジョナリー会議」の立ち上げなど、患者中心の医療実現に向けた取り組みを牽引。約5年間の任期を終え本年9月に退任。

「共創」、そして「価値の共創」へ ～新たな価値観との出会い～

製薬協に着任してから間もなく5年が経ちます。私はかつて行政の世界に身を置いており、特に2008年から約2年間は安全対策課長を務め、その後PMDAの安全管理監を3年間務め、合わせて5年間ほど安全対策業務に従事してきました。薬に関する仕事は常に厳しい批判にさらされる一方、薬を必要とする患者さんの切実な願いに応えることの重要性を痛感していました。

“ 「患者さん中心」から、「共に創る医療」へ ”

製薬協に入って4年を超えた昨年の夏頃、患者さんとの関係性について強い課題意識を抱いていた時期に、運命的な出会いがありました。特定非営利活動法人 ASrid (アスリッド) の西村由希子理事長から「Patient Centricity撲滅運動をやっている」という衝撃的な言葉を投げかけられたのです。その代わりとなる言葉として「Co-creation」というキーワードをいただきました。このCo-creationという概念は、患者さんを「輪の中心」に置くのではなく、「輪の仲間」として捉える世界のトレンドと合致しており、私の中で大きく腑に落ちました。この理念は、当時の上野会長からの後押しもあり、製薬協の新しい産業ビジョンのキーワードとして採用されました。そして宮柱会長は、このCo-creationに「価値」という言葉を加えて「価値の共創」へと発展させてくださっています。

患者さんの声に耳を傾けて ～情報アクセスという課題～

従来の製薬業界は、医薬品の販売先である医療機関を強く意識する傾向がありました。医薬品の真のユーザーである患者さんの声が、私たちの意識の中で必ずしも高いプライオリティに置かれていなかった時期があったことは否定できません。Co-creationの理念を掲げる前ですが、2022年に製薬協として難病患者さんに対する困りごと調査を実施したところ、患者さんは治療薬へのアクセスだけでなく、すでに承認されている医薬品や開発中の新薬に関する情報へのアクセスや理解に深刻な困難を感じておられることが明らかになりました。治療に行き詰まっている患者さんにとって、これらの

情報は文字通り「命綱」と言えます。

情報へのアクセス課題の解決に向け、「臨床試験にみんながアクセスしやすい社会を創る会」が患者さん・家族・医療者・研究者によって設立され、製薬協がその事務局を引き受けました。従来は、患者さんが治験や臨床研究について、自らその情報を入手し、理解して参画するハードルが高かったため、jRCT(Japan Registry of Clinical Trials:臨床研究実施計画・研究概要公開システム)の使い勝手を改善することで、患者さんが必要とする臨床試験情報へのアクセス向上を目指しています。

医薬品の情報提供については、適切に行うための広告規制を遵守する必要がある一方、規制に抵触することを恐れるあまり活動を過度に自主規制し、結果的に患者さんからの情報アクセスの妨げになっているというジレンマも存在します。jRCTのような開発中(すなわち未承認)の薬の情報へのアクセス改善は、単純な規制緩和ではなく、関わるステークホルダー全員が知恵を絞って工夫することで乗り越えるべき課題です。そのためには、Co-creationという考え方が大切になってくると思います。

この「創る会」の活動は、患者団体だけでなく、研究者、データベースのハンドリングを担う機関、行政のがん対策課や難病対策課等、多様なステークホルダーが同じ目線で課題解決に取り組むCo-creationのモデルケースとなっています。また、患者団体の代表や行政、PMDAの長、製薬協会長が一堂に会し、それぞれの立場から率直に語り合う「くすりビジョナリー会議」の立ち上げにも関わりました。

内なる共創の実現 ～組織の活性化～

Co-creationについては、外部との連携が先行していましたが、製薬協内部の「中のCo-creation」も重要な課題でした。製薬協の委員会活動はそれぞれの専門分野に応じて分かれているため、委員会間でお互いの活動内容を十分に把握しきれておらず、患者さん関連の活動においても相互連絡・連携が取れておらず、まとまりに欠けている場合もありました。製薬協全体のコンプライアンス確保の目的でほぼすべての委員長が集まる場はありましたが、未来志向で自由に議論する場ではありませんでした。そこで、ボトムアップで現場目線の議論を促す仕組みとして、「Co-creationミーティング」を企画しました。この会議では、宮柱会長にも参加いただき、オープンな雰囲気とするため机は設置せず袖机付きの椅子を採用したほか、ルーレットを使って発言順を決めるなど、創意工夫により、クリエイティブで活気ある議論ができるようファシリテーションしました。この取り組みにより、製薬協全体に「みんなで作りましょう」「みんなで盛り上がりましょう」というムーブメントと一体感が生まれ、組織全体がクリエイティブで活気ある方向へ向かうきっかけになりました。このムードチェンジは、スタッフが自らの仕事にやりがいを感じ、顔つきが変わるという変化も伴い、組織全体の活性化につながっています。今後は、Co-creationの対象を患者さんだけでなく、他の既存のステークホルダーにも広げ、関係性をアップデートし、戦略的な対応をデザインしていく必要があります。特に薬剤師コミュニティについては、医療の分業化が進む中で、医薬品の専門家として食品、運動、睡眠などの生活習慣も含めた薬物治療全体について患者さんの相談に乗れるような能力を養うことが期待されています。製薬業界として、薬剤師の皆さまが患者さんのためにより良い仕事をしやすくなるよう、積極的な協力や応援をしていく戦略的アプローチが重要です。

次世代への継承と伝わるコミュニケーション

国民や患者さんへのメッセージとして、まずは皆さまの声に耳を傾ける姿勢を継続しつつ、製薬協側からも「こういうことを実現したい」「そのために患者さんにこうしてもらいたい」という提案をわかりやすく丁寧に発信していく必要があります。患者さんへの情報提供では、さまざまな医薬品を併用するなど特別な注意が必要な患者さんの負担軽減のため、かかりつけ薬剤師など薬のプロフェッショナル人材に活躍していただくことも重要です。また国民や患者さんにメッセージを届けるためには、メディア向けの情報発信も必要です。メディアセミナーを積極的に活用し、患者さん、医療従事者、医療経済の専門家が難病などをテーマに議論する場を設けています。例えば、SMA(脊髄性筋萎縮症)に関するセミナーでは、画期的な治療法とそれに伴う高額な医療費負担や医療経済評価の課題について、共通の理解を深め、さらにその先の治療や療養の課題についても理解を深めることができました。今後の課題として、国民の皆さまに関心を高めていただくため、イベント機会の創出や、X(旧Twitter)などのSNSを活用したタイムリーな情報発信をさらに進める必要があります。Co-creationを持続的に発展させるためには、ステークホルダー間の「目線合わせ」を可能にするコミュニケーションラインの整備と、議論をリードし調整役を担うファシリテーターを育成していくことも重要です。私は、トップダウンだけでなくボトムアップの活動を奨励し、組織全体がクリエイティブなモチベーションを維持するムード作りが大切だと考えています。一人の人間ばかりが長く続けるよりも、異なる背景・キャラクターの人が同じ思いを理解し、経験値を増やしていくことが重要です。私は今後、製薬協の「応援団」として外から活動が続けるつもりです。医薬品に関わる発信は専



Co-creationミーティングの一幕

門的で堅苦しくなりがちですが、常に工夫し続け、一般の国民や患者さんに「優しく届く」「心にしみる」ような、柔らかな伝え方を追求し続けることが大切だと思います。

患者さんとの真の共創により、革新的医薬品をより早く届ける

宮柱会長が掲げる「価値の共創」は、さまざまなステークホルダーと価値を共有し、共に作り、高めていくことを目指すものです。これは製薬協の本質であるイノベーションを患者さんに届ける活動そのものです。私たちが創製した革新的な新薬で世界の患者さんを救い、医療環境を向上させていきたい。そのためには各国との連携を深め、グローバルな課題解決に取り組んでいく必要があります。医薬品は患者さんの命を支える大切な人類共通の財産です。だからこそ、国や地域を越えて協力し合い、どこに住んでいても、できるだけ早く最適な治療を受けられる仕組みを整えていくこと—それが私たちの目指す道です。Co-creationという新たなアプローチのもと、すべてのステークホルダーが対等なパートナーとして手を携え、真に患者さんのための医療を実現していく使命を次世代につないでいきたいと思います。